

AMED報告資料

CANNDS実施計画

2021年3月16日

CANNDs※ の目的

<目的>

- ゲノム医療研究の推進のため、個人特定性の高い希少疾患ゲノムデータや要配慮に当たる詳細な臨床情報等の「公開できない」データを、産業界も含めて研究利用できる環境を整備する。

<実施内容>

- 「公開できない」ゲノム情報および臨床情報を対象とした研究を支える a)データベースと b)解析環境を整備する。
- a)データベースは、AGDの運用改善により、整備する。
- b)解析環境としてvisiting型計算環境を整備する。
 - 英国のGenomics Englandの成功を受け、当面、同じモデルを採用する。
 - 難病がんの全ゲノム実行計画で生成されるデータとコントロール群のデータを合わせて解析するための研究基盤を目指す。
 - 利用者がデータを持ち込み統合解析できる環境を整備。

※ Controlled sharing of genome and clinical Datasetsの略

ゲノム医療実現のためのデータシェアリングポリシーの改定

■ 課題と対応方針

- 「制限共有」の理念を実装すべく、運用体制を見直し強化する

課題	対応方針
NBDCのJGA（制限公開）への移行を無期限に延期できるため、実際にはJGAへの移行が実行されず、その結果、データの利用範囲が狭められている	新AGDからJGAへ移行する 期限を公募要領中に明示 し、期限後にAMEDが移行を実施する
「制限共有」とすべきか否かの判断が研究者自身に委ねられている	「制限共有」とすべきか否かは、 第三者が客観的に判断 する仕組みを整備する
AGD登録データの利活用は研究者の意欲に任せられている	新AGD登録データの利活用を広げる仕組みとして CANNDSを整備 する

健康・医療データ利活用基盤協議会の議論を踏まえた対応

■ 当面、優先して議論すべき事項

国（AMED）の研究開発データの、研究開発における利活用について

- 利活用が必要なデータの範囲
- データ利活用基盤のあり方

第1回 健康・医療データ利活用基盤協議会（令和2年11月2日）資料1より抜粋

■ 対応方針

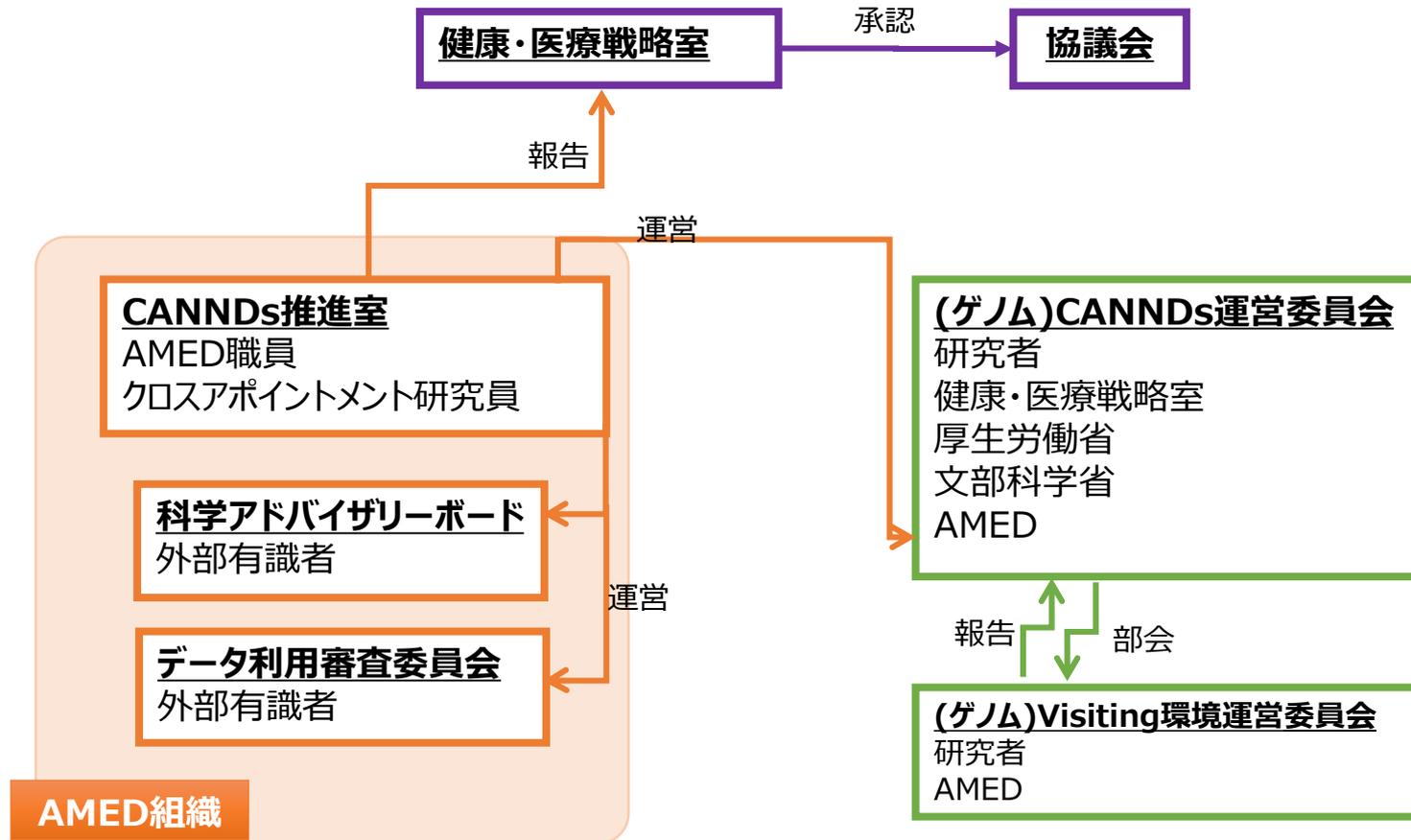
- AMEDが支援する研究から得られたデータを、収集し格納するデータベースと、その利活用環境を整備する。
- データベースの構築に当たっては、これまでゲノム情報を対象としていたAGDの機能を拡張し、AMEDが支援する研究から得られたデータを対象とする。
- CANNDSが提供するVisiting解析環境については、これまでゲノム情報を対象として検討していたが、これを拡張し、AMEDが支援する研究から得られたデータを広く対象とする。

CANNDs実施計画（工程表）

<目的> ゲノム医療の推進のため、AMEDが支援する研究から得られた「公開できない」データについて、産業界も含めて研究利用できる環境を整備する。

	R3年度（CANNDsテスト稼働）	R4年度以降（CANNDs本格稼働）
利活用データ	コントロール群	コントロール群、がん難病全ゲノム情報、新AGD登録のゲノム情報 新AGD登録の詳細な臨床情報（画像情報・ヘルス情報を含む）
データベース	ゲノム医療実現のためのデータシェアリングポリシーの改定 新AGDの整備	本格稼働・ニーズに基づく更なる改善
検索	ポータル型システム メタデータをNBDCと共有	横断検索型システム・ニーズに基づく高度化 NBDCとのメタデータ共有による検索利便性向上 バイオバンク横断検索システムとの連携による検索利便性向上
サービス企画	One Stopな利用受付・審査サービス テスト利用によるVisiting計算環境の検証 テスト利用によるコントロール群の利便性の向上 研究公募準備（ゲノム解析の均質化を含む）	研究公募（利活用推進、解析の均質化、データの品質管理） データ標準化（外注を含む）・詳細な臨床情報のメタデータ開発 産学連携コンソ・利活用マッチング活動 利用者コミュニティの形成・異分野交流を通じた人材育成
Visiting解析環境	大規模ゲノム解析基盤の構成について検討 AMEDに高度セキュリティーームの設置を検討	CANNDsの運用・保全のための領域の増強 クラウドを併用したハイブリッド運用
アクセスセキュリティ	セキュアなアクセス環境 利用者の認証（テスト稼働）	セキュリティとアクセス利便性の見直しと高度化 e-Rad番号を利用した利用者認証の検討
AMED組織	準備室の設置（室長、AMED職員） 科学アドバイザーボードの設置	推進室の設立（室長、AMED職員、加スパ ^o イノメイト研究員） データ利用審査委員会の設置

CANNDs運用体制（R4年度以降）



- ✓ 2021年2月15日製薬協との意見交換
- ✓ 引き続き製薬協との意見交換の場を設ける